

# 地域への愛情をはぐくむ伝統文化の取組

小学校教科指導係 係長 宮本 憲二  
Miyamoto Kenji

## 要 旨

国際化が急速に進展する現代にあって、異なる文化をもつ人々と、ともにより豊かに生きていく社会を築いていくことのできる人間を育てていくことは、教育に課せられた大きな課題の一つである。

先人が大切に守り、はぐくんできた我が国の伝統文化について学習し、先人の願いや思いを知り、自分の生き方に反映させていくことは、国際社会で生きていく上で大切である。

先頃公表された学習指導要領の改訂案でも我が国の伝統や文化に関する教育の充実についての記述が、従前よりも一層明確に示されている。

本研究では、我が国の伝統文化の学習を総合的な学習の時間や特別活動等において、地域の特徴を生かして研究を進めている2つの小学校の事例を基に考察する。

キーワード： 我が国の伝統文化、地域への愛情・誇り

### 1 はじめに

本県では、多くの学校で、「茶道」「華道」「獅子舞」「和太鼓」「能」「狂言」等といった伝統文化や地域に根付く伝統芸能を学習し、継承しようとする取組が見られる。

こうした取組を更に充実・発展させ、伝統文化や伝統芸能を児童が体験し、学習することから我が国や郷土の文化の価値を深く理解し、地域への愛情や誇りを育てるとともに、日本人としてのアイデンティティーの確立を目指すべく本研究主題を設定した。

### 2 意義・目的

近年、地域に在住する邦楽の演奏家や師匠、茶道、華道をたしなまれている方々等を外部講師として授業に迎え、様々な取組が展開されてきている。児童がより主体的に我が国の伝統文化に取り組みするような授業計画の作成や指導方法、授業展開の在り方等について研究する。

### 3 研究のポイント

- (1) 総合的な学習の時間や特別活動等における地域の特徴を生かした伝統文化の学習
- (2) 伝統文化に取り組むための効果的な外部人材等の活用
- (3) 保護者や地域との連携

### 4 研究内容

【事例1】「能」の取組

- (1) 研究主題

① 研究主題

地域を尊び自ら心と体を拓く「能」学習

② 研究校でのねらい

「能」には地域の人々の思いや願いが脈々と受け継がれてきた。児童が地域に伝わる文化や歴史へ関心をもち、それを尊重する教育の推進を保護者や地域住民も期待している。

そこで、児童が郷土の文化や伝統と自分とのかかわりを深め、自分たちの住む地域を誇りに思い、感謝する心をもつことによって、「生きる力」の根底を支える豊かな人間性の育成につなげていくことをねらいとした。

(2) 研究の取組概要等

① 取組の概要

ア これまで取り組んできた成果をもとに、児童に「能」を通じ、より我が町を愛する心を育てる。

イ 総合的な学習の時間や特別活動に「能」の学習を位置付けた全体計画。

ウ 保護者及び地域住民への公開授業の開催。

② 指導の実際

「能」の仕舞、謡いについて外部講師から指導をうけ、発表の機会をもち、児童が全員舞い、謡を行う。

(3) 成果と課題

「能」を学習することは、ただ単に「能」の技術を児童の身に付けさせることではなく、「能」を通して、町の歴史や文化に深く興味をもち、自分たちがそれらを守っていこうとする意欲や、わが町斑鳩に対する誇りをはぐくむことでもあった。本取組を通して、普段の生活ではほとんど経験しないような床の上での礼儀正しいあいさつや、姿勢を正しての長時間の正座、腹の底からの発声等は、授業においても生かされ、落ち着いて、真剣な眼差しで学習に取り組み、集中できる力を身に付けさせることにもつながった。

また、はっきりと口をあげ、発声する練習は、国語や音楽の学習にも生かされ、群読や合唱の力を伸ばすことにも大きな成果を上げることができた。

伝統文化の継承と児童の健全な心の育成を目指した取組であったが、取組方法や使用教材、外部講師の活用の在り方等を点検し、さらに研究を進めたい。

(4) 単元での展開例

教科等	総合的な学習の時間	学年	3年	単元名	「能」(金剛流)の学習
単元のねらい	「能」の学習を通じ、児童に我が国の伝統文化に対する認識を深めさせると共に郷土に誇りと愛着をもたせる。				
取り扱う伝統文化	「能」				
◇単元の概要					
「能」の学習を通して、「あいさつ」、「礼儀作法」、「けじめ」等を身に付けさせ、地域の人々の思いや願いを知るとともに、学習した内容を保護者や地域の方々に発表する。					
◇単元の指導計画(全40時間)					

時間	主な学習内容、学習活動等	教師の支援、取組体制(外部人材の活用等含む)等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部講師から「能」についての話を聞き、「能」を学習することの意義をつかむ。</li> <li>○「あいさつ」、「礼儀」、「けじめ」について知り、立ち方、座り方、声の出し方を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者として金剛流主宰に来ていただき指導を受ける。</li> <li>・3年生の担任、特別支援学級の担任等も参加し、とまどっている児童に助言する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統を守っていくことの大切さ、斑鳩町の歴史について学習し、意欲を高める。</li> <li>○謡「高砂」「雪」の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が、事前に習得した事柄を児童に伝え、やればできるという意欲と喜びを児童全員がもつことができるよう指導する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○謡において大きな口を開け、大きな声でみんなに伝えることの大切さを知り、「能」の歩き方、構え方、扇の持ち方などを学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金剛流主宰の指導により、児童一人一人が声を出し、人に伝えていくことの大切さを理解させる。担任は巡視しながら指導助言する。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仕舞、謡の練習をするとともに、浴衣と帯の着付けを学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童どうしの仕舞、謡を互いに評価させ、教員が助言し、児童に自信を付けさせる。</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「雪」の仕舞、謡を完成させ、次に「熊野」の仕舞、謡を学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金剛流主宰と教員が協力し、児童が困っているところを支援し、児童が自信をもって舞えるようにする。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「らんらんフェスタ」(日曜参観)において、保護者や地域の人たちに、練習の成果を披露する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自信をもって、自分の力が出せるよう励ます。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの成果を児童同士披露し合い、金剛流主宰とともに完成の喜びを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が児童の今までの努力をほめると共に、他の事柄に対しても努力することの大切さを話す。</li> </ul>

◇本単元における成果と課題

日本の伝統芸能である「能」の学習を通して、児童は斑鳩町の歴史に深く興味をもち、自分たちがその歴史を継承しているという喜びと、斑鳩町に対する誇りを感じることができた。着物を着、一時間もの間、姿勢を崩さず正座し、自信をもって、発声するという実践を積み重ねた結果、普段の授業においても落ち着いて学習に取り組んだり、集中したりできる力を身に付けることができた。

また、はっきりと口をあげ、発声する練習は、本年度同時に研究を進めた国語力向上の取組にもつなげられ、成果を上げることができた。

「らんらんフェスタ」(日曜参観)においては、3年生の保護者だけでなく、他の学年の保護者からも賞賛を得た。

そのほか、外部講師から教えを受けることは、子どもにとって、すばらしいことだと保護者からの声も得た。この取組についての様子は、児童から家庭へ伝わり、家庭から地域へと伝わっている。これから

も、本取組を続け、小学校卒業後も児童に斑鳩町の「能」について、郷土について関心を深めていってほしいと願っている。

今後の課題として、指導内容の検討や教材の選択、外部講師の確保等がある。本年度は、ほぼ1週間に一度、指導を受けることができたが、学校行事との兼ね合いや、外部講師来校の日程調整等は、かなり難しいものがある。年間を通じての計画を再度見直していく必要がある。

## 【事例2】「茶道」の取組

### (1) 研究主題

#### ① 研究主題

茶道を通して、児童に日本人としての誇りや郷土愛をはぐくみ、心の豊かさを培う。

#### ② 研究校でのねらい

地域には地場産業、そして伝統産業である茶せんや茶せん以外の茶道具を製作している工房等が多い。

しかし、児童が普段の生活の中で茶せんづくりに触れたり、茶道に親しんだりする機会は少ない。そこで、茶道の心や作法を学習することを通して、郷土に対する誇りや郷土愛をはぐくみ、児童の学校生活に潤いや落ち着きをもたらし、心の豊かさを培うことをねらいとして、研究を進めた。

### (2) 研究の取組概要等

#### ① 取組の概要

地域に根付く伝統産業である茶せんづくりや茶道具について学習し、製作にかかわる地域の方や茶道教授を招へいし、講話や実技指導を受ける中から、その道に携わってきた人々の願いや思いを知り、地域について考えた。

また、全学年において、薄茶と茶菓をいただくなどの機会を通して、地域に対する誇りや愛情をはぐくめる機会を多く設定した。

#### ② 指導の実際

裏千家教授やスクールボランティアの方々を講師として招へいし、お茶の心、座り方、礼儀作法、いただき方など全学年で指導を受けた。

例えば6年生は、地域のスクールボランティアの方々からのお点前指導や自分たちによる抹茶茶碗製作及びお点前体験、茶せん組合の方々の製作風景の写生会等を行った。

### (3) 成果と課題

本取組を通して、児童は自分たちの住んでいる地域に対してより一層の誇りと愛着をもつことができた。茶せんづくりの巧みさや、茶道の歴史の深さに、驚きと感嘆の声をあげていた。お茶の心に触れ、作法を学ぶことで、あいさつに一つ一つ心が込められるようになった。

また、全学年を通して取り組むことにより、児童は異学年の児童の考え方や感じ方等を知り、強い刺激を受けていた。

本年度は外部講師をはじめ、地元生産組合、スクールボランティア、老人会など地域の方々に協力していただいたが、次年度も引き続き地域の方や保護者との連携、外部人材の活用について、本年度の取組を検証しながら計画的に実践を積み重ねていきたい。

(4) 単元での展開例

教科等	総合的な学習の時間	学年	6年	題材名	「高山を知ろう 茶道を学ぼう」
単元のねらい	お茶にかかわる学習を通して、日本人としての誇りと地域理解や郷土愛をはぐくみ、心の豊かさを培う。				
取り扱う伝統文化	茶道				
◇単元の概要					
我が国の伝統文化である茶道に触れ、茶道の心や作法を学ぶことから、豊かな心を培い、礼儀作法などけじめのある態度を養うとともに伝統工芸品である茶せんを生産している郷土への愛をはぐくむ。					
また、茶道に親近感をもたせ、学びを深めるため、茶せん製作風景の写生をしたり、お点前に使用する茶碗の製作に取り組んだ。					
◇単元の指導計画（全12時間）					
時間	主な学習内容、学習活動等			教師の支援、取組体制（外部人材の活用等含む）等	
1	○高山で作られる茶せんについて、今までに学習してきたことを振り返り、事前学習を行う。  ○茶せんづくりの写生会を行うに当たってオリエンテーションを行う。			・茶道で使用されている茶せんの多くが高山で生産されていることや、その製作過程について、伝統産業の学習を振り返り確認する。  ・限られた時間内で写生できるよう、時間の配分や流れを確認する。	
4	○茶せん製作風景の写生会を体育館で行う。一つ一つの作業行程や作業の巧みさを知り、それを写生する。			・高山茶せん生産組合の方8名に来て頂き、体育館で、実際に茶せん製作をしてもらう。 ・教員は体育館を巡回し、見る視点や作業の内容について適宜助言する。作品は、すべて伝統的工芸品図画コンクールに出品する。	
2	○お点前体験で使用する茶碗を製作するための方法を学ぶ。事前に粘土を使って練習する。			・児童が茶碗をイメージしやすいよう、いろいろな茶碗を提示し、作り方を指導する。	
2	○茶碗を製作する。			・保護者と一緒にそれぞれ茶碗を製作する。 ・児童の進捗状況を見ながら適宜助言する。	
2	○お点前を体験をする。 ・クラス（25名）毎に多目的室で行う。 ・茶道の先生から、高山と茶せんの歴史について話を聞く。 ・茶道の礼儀作法について学ぶ。 ・礼の種類や仕方について学ぶ。			・外部講師を招へいし、指導に当たる。 ・事前に教員と外部講師が指導内容について確認しておく。 ・地域の老人会やスクールボランティアの協力を得て、お茶、菓子、袱紗、懐紙等の準備をする。 ・可動式畳を用意し、茶室の雰囲気をしつらえる。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作法に基づいて菓子をいただく。</li> <li>・製作した茶碗を使い、お茶を点て、いただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの作法についてうまくできない児童に対して、助言をする。</li> </ul>
1	○お点前体験を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の取組を振り返らせ、学んできたことを日常生活で生かせるよう指導助言する。</li> </ul>
<p>◇本単元における成果と課題</p> <p>地域における茶せん製作風景の写生や、地域で製作された茶せんを使ってのお点前体験を通して、児童は、自分たちの住んでいる地域に対して、誇りと愛着をもつことができた。</p> <p>また、茶せんづくりの巧みさや、茶道の歴史の奥深さを知り、驚きや感嘆の声をあげ、感動していた。</p> <p>ほかにも、自分で茶碗を作ることで、茶道を身近なものに感じ、お点前に臨む心構えができた。茶道の心に触れ、作法を学ぶことから、今まで何気なくしていたあいさつの一つ一つにも心が込められるようになった。</p> <p>今後、6年間の見通しをもった取組や、引き続き外部人材の活用等を考えながら継続して研究を進めたい。そのためにも普段から地域や外部人材といかに深く広くかかわるかが重要であり、そのかかわりによって、外部人材の活用の幅と有効性が左右されることも考えられるため、本年度の取組等を検証しながら計画的に実践を進めたい。</p>		

## 5 研究結果と考察

### (1) 【事例1】「能」の取組

「能」の専門家と連携を図り、総合的な学習の時間を中心として取組を推進した。児童が本取組を通して、日本の伝統文化や伝統芸能、礼儀作法等、多方面にわたって学びを深めている。「能」の理解を深めるための全体計画や指導計画等の作成及び実践を通して、児童がけじめの大切さや礼節の大切さを理解し、学校生活全般で生かされている。

本事業の取組後、「金剛流」発祥の地だと分かってよかった、外部講師の先生は厳しいけれど、うまくできたらほめてもらえるので、とても嬉しかった等の感想を述べている児童が多く、研究の成果が見られる。

### (2) 【事例2】「茶道」の取組

茶道と地域の伝統産業である「茶せんづくり」についての学習の深化や教育課程への位置付け、伝統文化や伝統産業を取り入れた教育活動の充実を図っている。指導に当たって、外部講師、保護者、地域の人々と綿密な連携を図ることにより、体験学習を通して茶道の歴史や精神、日本の伝統文化のよさを児童に実感させることができています。

本事業の取組後、自分の住んでいる所が茶せんの里だと知り、とても素敵なことだと思った、毎日の生活を礼儀正しくしていきたい等の感想を述べている児童が多く、研究の成果が見られる。

### (3) 2事例を通して

上記(1)、(2)は総合的な学習の時間や特別活動等において、伝統文化に取り組んだ2つの小学校の事例であった。

伝統文化の学習を進めるにあたっては、本事例の2つの小学校のように、地域に伝わる伝統芸能や地域に根付く伝統文化などに着目し、子どもたちが実際に見たり、体験したりする中から、

郷土の文化の価値を深く理解したり、郷土への愛情や誇りをはぐくんでいったりすることが大切である。

しかし、必ずしも地域に伝統文化が根付いているとは限らず、そうした場合に、子どもの実態や、地域にどのような伝統文化があるのか等の把握から始めることが大切である。

また、取組にあたって、どのような方法で研究主題に迫っていくのか、研究主題に迫るための具体的な指導計画や指導方法、効果的な展開方法をどのようにすればよいか、外部講師を招聘するのが効果的か否か、外部講師を招聘した場合、例えば、授業のどの部分で指導に入ってもらい、アドバイス等してもらうのか、子どもたちへ、どのようなメッセージを発信してもらうのか等、細部に渡って綿密に計画を立てておくことが必要であり、そのことが大きな成果へと繋がっていく。

そのほか踏まえておかなければならないこととして、子どもたちが伝統文化を学習することは、単に技術や技能の習得を図るのが目的ではなく、伝統文化を守り、はぐくんできた人々の願いや思いを知り、そのことから伝統文化に対する人々の慈しみ、繊細な感覚、礼儀作法、言葉、仕草等の中に込められたよさや美しさといったものを子どもたちが自ら発見したり、実感したりして、自分の生き方に繋げていくということである。そうした中から徐々に日本人としてのアイデンティティーがはぐくまれていく。

## 6 終わりに

実践校では、自校の児童の実態や、これまでの自校での伝統文化についての取組を踏まえ、自校で研究主題を設定し、取り組んだ。今後、保護者や地域住民との連携の在り方、教科を横断した取組内容の構築等、更に工夫することも考えられる。

また、実践校の取組をどのように県内の他の学校に広めることができるのか、伝統文化をいかした取組が更に充実できるような支援の在り方等についても研究していきたい。

## 参考文献・引用文献

- |                                       |        |
|---------------------------------------|--------|
| (1) 「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業」中間報告書 | 平18・19 |
| (2) 小学校学習指導要領解説－音楽編－                  | 平11    |
| (3) 小学校学習指導要領（案）及び中学校学習指導要領（案）        | 平20.2. |